

# 令和4年度 自己評価表

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、他者と協働し地域の未来創造に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
-------------------	--	----------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 ( ) 月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 確かな学力の育成	○学力の向上 ・基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ・思考力、判断力、表現力の更なる育成 ・主体的・対話的で深い学びの実現	・アクティブ・ラーニングの公開授業及びルーブリック評価に関する公開授業を実施した。 ・Google Classroom の活用を推進することができたが、Find! アクティブラーナーの活用が遅延した。(ICT機器活用100%) ・資格取得(合格率66%)	・組織的、計画的に授業改善を推進し、生徒が主体的に学習に取り組む	・Google for Education を活用した授業を実施 ・BYAD対応、ICT機器を活用し、ルーブリック評価・観点別評価のあり方についての校内研修会を実施 ・各教科1人以上が授業公開し、教科横断型授業、授業改善を推進			
			・各系列の特色化と資格取得の促進し、資格試験合格率70%以上	・系列ごとの各種資格・検定の受験を促し、合格に向けての支援 ・学校独自事業の充実、特別支援学級との交流			
			・探究学習を深化させ、課題解決能力の向上	・「新商都米子まちづくり」へ参画し、学習成果を米子市に提案			
2 豊かな人間性の育成	○基本的な生活習慣の定着  ○生徒の主体的活動の推進(国際交流・部活動)  ○支援が必要な生徒への援助	・安全意識の高揚と啓発に努めたがヘルメット着用率は15%であった。 ・遅刻者数は前年比14%減少であった。 ・SNSに起因する問題行動があったが件数は減少した。 ・生徒会執行部による活動がコロナ禍ではあったが対策をして活動することができた。 ・国際交流については、コロナ禍の影響で直接はできなかった。 ・外部機関(SSW、児相、医療機関、要対協)との連携が密にでき、早期に対応できた。 ・学校生活アンケートの2回目が未実施により比較分析ができなかった。	・規範意識・安全意識の向上	・米子高校生としての自覚を促す行動の啓発強化 ・SNSトラブル未然防止に向けたデジタル・シティズンシップ教育の推進			
			・自転車ヘルメット着用率100%	・掃除の徹底と整理・整頓の推進、時間管理、挨拶の励行 ・自転車ヘルメット着用徹底(生徒による啓発・PTA連携)			
			・遅刻者数が前年比10%減少	・遅刻確認票による遅刻者指導の強化と保護者連携			
			・生徒の各種活動への積極的に参加	・生徒会執行部を中心とした自主的活動の充実。(はるかのみまわり絆プロジェクトの継続、創立50周年記念事業への参画) ・外部指導者、部活動指導員の活用や効率的な練習方法を研究・導入し、顧問の時間外業務を削減、地域移行に向けた部活動の在り方検討 ・アメリカ、韓国の姉妹校との交流の継続促進			
・生徒情報を共有し、適切な支援ができる	・校内研修、委員会での情報共有、外部関係機関との連携による適切な対応 ・学校生活アンケート(年2回実施)で自己肯定感が高いと回答する生徒が70%を超えるようにきめ細かい支援の実施 ・人権学習委員が主体となって活動できる人権教育LHRの運営、活性化し学習を構築						
3 自己実現のための進路指導の充実	○探究学習の充実  ○キャリア教育の発展  ○進路指導の充実	・「探究学習」にSDGsの視点を導入することで全学年の系統的なキャリア教育の構築に務めた。 ・キャリアパスポートの作成はできたが、進路指導への活用について検討が必要であった。 ・大学進学19名(内国公立5名)の結果であった。 ・コロナ禍であったため医療現場の見学・交流が困難であった。	・進路実現に向けて主体的に努力し学びに取り組む態度の育成	・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」の系統的な探究学習の深化 ・キャリアパスポートを活用した進路指導の実施し、自らの成長を実感できる取組 ・学習成果発表会における他校生徒との交流			
			・大学進学25名以上(内国公立5名以上)	・外部講師による放課後学習会、公務員講座の充実 ・教員研修と進路希望検討会、探究学習の充実による進路保障			
			・教員の進路指導力の向上と外部指導者の活用	・看護・医療系進学希望者の職場体験の実施による進路実現			
4 地域との連携による学校づくり	○地域のニーズに応じた地域貢献  ○積極的な社会参画と情報発信	・コロナ禍でのイベントのため制限や中止、施設への訪問ができない状態が相次いでいたが、開催をする工夫等を行った。 ・地域との連携により学校への信頼、期待がなされている。 ・学校運営協議会の活動の活性化がコロナ禍のために不十分であった。 ・情報発信については、ホームページ、フェイスブック、youtubeとも適切な時期に活用ができた。	・文化芸術活動、系列での事業を通して地域のニーズに積極的に答える	・部活動における各種イベントの企画・開催と参加(ハイホット・ダンスフェスティバル、施設訪問、書道パフォーマンス) ・系列事業における活動で地域貢献を促進(イチゴ栽培・収穫交流、花壇用草花植栽活動、プログラミング教室) ・学校運営協議会を活用した地域との連携活動の推進(はるかのみまわり絆プロジェクト、自転車ヘルメット着用指導)			
			・社会に繋がる教育活動を推進	・高校生出前キャリアガイダンスによる生徒活動の活性化 ・マスコットキャラクターを活用した各種イベントへの積極的参加 ・総合美術展の開催による情報発信 ・ホームページでのタイムリーな情報発信			

評価基準 A:目的・目標を達成した B:ほぼ計画(予定)どおり推進している C:取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D:一層の(新たな)取組が必要